

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700076		
法人名	社会福祉法人ユーカリ優都会		
事業所名	グループホーム ユーカリ優都ぴあ		
所在地	千葉県佐倉市青菅1023-6		
自己評価作成日	令和4年1月13日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	令和4年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 敷地内に広いガーデンがあり、気軽に散歩に行けて、季節を感じられる。 学童保育との交流を間接的にお互いの存在や気持ちが繋がるよう職員間でも工夫している。 入浴に準天然光明石温泉を採用し、温浴効果を高めている。 リビング5メートルの高さから採光を取り入れ、明るい雰囲気。 全室南向きの個室で家具の持ち込みも可能。 1日の予定をあまり決めず、利用者の希望を優先している。 自家発電設備を有し、大規模停電時でも対応できる。 感染症に留意しつつ日常生活を保てるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1) ゆったりと寛げる広いリビング、目の前には多目的なケアガーデン、全面南向きの居室、学童保育併設で毎日の子どもたちと交流(コロナ禍時は間接交流)できる恵まれた環境のホームである。2) センター方式「心身の情報」シートに短期目標・サービス内容と評価や気づきを記入できるよう工夫し入居者の何気ない言葉や心身のわずかな変化を職員がその都度記入し思いや意向を把握し、「その時のその人らしさを大切にしたい」ケアプラン作成に繋げ共有しサービスの質の向上に努めている。3) 「共に認め合い、助け合いながら生活する家族」との理念の実践に向け、個別の自立支援にチームワークよく取り組んでいる</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示したり、職員入職時や月1回のユニットミーティング時に施設理念を読み合わせし、改めて理念について話し合いができ、利用者に対する姿勢を確認している。	介護方針として3つ理念を掲示し、職員のネームプレートにも差し込み常に意識できるよう工夫している。ユニットミーティング時にテーマを決めて読み合わせを行い実践状況について話し合っている。一人ひとりの持てる可能性をたたえ、認め助け合いながら生活する家族を目指し理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設学童保育の子供達と間接的な交流とし、下校時にお互い手を振りあったり、毎月カレンダーや行事毎にプレゼントや手紙で交流している。	地域に開かれたホームを目指し、地域との交流を図ってきたが、コロナ禍のため中断している。幸いにして学童保育が併設されており、毎月のカレンダーや季節の行事ごとのプレゼントや手紙の交換、下校時に手を振り合ったりと交流が続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学童保育の保護者に向け不定期に発行している「ふれあい便り」の中でグループホームとの日常的な関わりを紹介してもらい、認知症に対する理解を広げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域包括支援センター、地域社会福祉協議会、ご家庭宛に開催予定を年度初めにお知らせして今年度は10月より行っている。開催予定月には、参加予定各所に対して議事録を送付し、施設運営状況についてお知らせしている。	市役所、地域包括支援センター、地区社協、近隣施設と家族に年間開催予定を事前に知らせ、コロナ禍時は書面会議を、また10月からは対面で会議を2ヶ月に一度開催している。入居者、生活状況、事故報告、ヒヤリハット分析や身体拘束委員会報告などホームの取り組みを議題として活発な意見交換が行われ、事故分析表作成など運営推進会議を活かす取り組みがされていることが議事録からも読み取れる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	佐倉市役所に対し、施設の運営方法や加算等の相談やワクチン接種、助成金申請等に関し随時連絡を行い、お互い連絡を取り合うようになっている。	運営推進会議議事録を市役所と地域包括支援センターに毎回届け、運営状況や取り組みを積極的に伝え、連携を密にとるようにしている。運営方法や加算などの相談やワクチン接種、助成金申請などに関し随時連絡を取り適切な助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけ、居室の施錠や拘束を行わずにケアが出来ている。スピーチロックやフィジカルロックについても疑問や問題が起きた際には職員間で話し身体拘束廃止に関するミーティングを設けている。	身体拘束と高齢者虐待、高齢者権利擁護と身体拘束廃止など、ホーム内研修を実施し実施後勉強会アンケートを取り研修成果を検証している。職員の意識も高く帰宅願望への対応やスピーチロックなど日常のケアで気づいたことをお互いに注意し話し合える環境ができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで勉強会を行い、虐待行為の認識を話し合っている。 2/10		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年制度に関する資料を作成し、職員間で閲覧出来るようにし、職員間で知識を確認しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書・利用上のリスクについて、ご家族と一緒に読み合わせをし、都度疑問点を確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時は必ず近状報告している。メールも活用してご家族との意見交換に利用している。 毎月発行の「優都ぴあ〇〇様通信」では写真を載せて近状報告している。	毎月の「優都ぴあ〇〇様通信」で写真を載せ近況を報告し、個別状況票を同封し一人ひとりの支援状況を丁寧に報告している。運営推進会議議事録で運営や取り組み状況を報告するなど家族との連携を大切にしている。コロナ禍で面会がままならない中、ウッドデッキ越し面会の工夫や半数の家族とメールを活用するなど、意見や要望を言いやすくし、また、反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要に応じて個人面談を行っている。また、業務に入ることで、現場の状況や職員の思いを把握し、運営に反映させている。	毎月のユニット会議時に業務に関する意見や提案を聞く機会を作り、また人事考課面談時にも職員の思いを把握し運営に反映させるようにしている。有休取得予定カレンダーに希望する曜日を記入し有休をとりやすいよう工夫している。年間研修計画をたて、色々な職員が講師を担当できるように割り振るなど、職員のスキル向上と育成にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回賞与支給時に人事考課を行い、職員に対し、適宜フィードバックを行っている。 職員に対する、メンタルチェックを年1回行っており、結果に応じて産業医が適切なアドバイスを行う体制が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で各種テーマ(認知症・身体拘束廃止・感染症等)を決め、勉強会を開催している。各職員が講師を担当出来るように割り振っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営会議開催時の依頼時出席、市内グループホーム他事業所と電話で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を活用し、本人の要望や職員の気づきを安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安に思っている事に対しては、真摯に耳を傾けている。結論に急ぐことなく、ゆっくりと時間をかけ、利用者の方が生活に慣れていく様子をお互いに確認合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と話し納得の上サービスを提供し、新しい問題点を話し合い、見極めを行いながら次のサービスへ繋げている。訪問診療。訪問理美容を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはなるべく自分で行ってもらい、出来ない事は一緒に行い、人として対等な人間関係を築けるように努めている。洗濯物たたみ、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き、床清掃などを職員と協力しながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にご利用者の状況を報告したり、ぴあ通信で日々のご様子を報告し、情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方との面会が制限されているが、手紙のやりとりや、本人所持の携帯電話の使用を手伝い友人関係が途切れないように工夫している。	家族以外の方との面会が制限される中で、手紙のやり取りや電話での会話や携帯電話でのライン入力のお手伝いなどの支援を行い馴染の関係が途切れないよう工夫し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や好み、相性を考慮しユニット内の座席位置を検討、工夫している。利用者個々で築いた関係性を大事にし、日常生活に活かしながら見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に入居中の写真データを作成しご家族にお渡しし、退所後も関係が途切れないようにフォローしている。他施設への転居や病院への入院時には介護サマリーを作成し、新しい環境に早く馴染めるように情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで、その方がどのように生きてこられたのか、一人一人把握し本人に聞き取っている。難しい場合は、ご家族に思いを聞いている。	毎月、全職員に入居者に関して「気になること」「提供したら良いケア」のアンケートを実施し、会議で話し合っている。アセスメントはセンター方式のイラスト記載のものを活用し、同じシートで短期目標のモニタリングを行い、3カ月ごとに更新している。生活パターン、趣味を聞き日々のケアに取り入れている。入居者は食事の後片付け、洗濯物干しや洋服たたみ、野菜や花壇づくりをしている方やワイパーを使用しての床掃除を行っている。入居者が好きな野球チームの応援歌をかけることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を得てこれまでの生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット職員によるモニタリングの他、介護記録や申し送り、様子観察により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、本人、家族と話し合い、ミーティングにも議題を出して現状に即した計画を作成している。	センター方式の用紙は職員がいつでも追加記入でき、用紙は3カ月ごとに見直している。また、毎月の職員アンケートを集約して会議で話しあい、プランを見直している。家族が訪れたときにプランの意向を確認している。	コロナ禍で面会が出来なくて、ケアプランの家族への説明機会が減っている。今後ケアプランへの家族の意向を電話等で更に積極的に聞いていくよう検討されています。実施されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング用紙を各ユニットにおいている。気付いた事や些細な情報でも記入して、集まった情報を生かせるようにしている。また、定期的なアセスメント、カンファレンス、モニタリングにより、計画の実践、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに応じている。その場、その時、臨機応変に対応できるように努めている。 5/10		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる活動の制限があり、行えていないが、地域資源を把握し、楽しみを見つけ支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を仰ぎながら、かかりつけ医に診療を受けている。訪問診療を利用している方は、毎月2回Drが来苑し診療を受けている。	元々のかかりつけ医には家族が受診同行している。往診医を主治医としている方は12名となっている。ワクチン接種や急なレントゲン撮影は近隣のクリニックの協力がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないため、バイタル測定や日々の様子を観察、記録に残し訪問医療や外部受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーやご家族と情報を共有し、早期退院に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況を把握し検討した上で、ご家族との相談、話し合いをし、次の施設等へスムーズに転居出来るように努めている。	看取りは行わず、本人の状況に合わせて施設を紹介している。実際は重度化への対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを用意している。定期的に勉強会を行い、急変時や緊急時に対応出来るようにしている。リーダー以上が不在時は、電話対応する体制が取れてあり、必要に応じ駆けつける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災倉庫に3日分の食材を確保している。同一法人近隣老人保健施設駐車場内には防災井戸があり、有事の際には水の確保が出来る体制にある。自家発電装置を設置し、大規模停電時には安心して生活できる体制を整えている。	近隣在住の職員により夜間は10分以内に5名以上駆けつけることが出来る。コンセント出火を想定した避難訓練と寝たきりの入居者に対する二人介助での避難訓練を行った。防災井戸、自家発電装置が整備されている。	夜勤を担当する職員が夜間想定避難訓練を体験できるよう取り組むことで、避難誘導を習熟されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として、人生の先輩として、尊厳や意識した接し方を心掛けている。日々の入浴や排泄等の対応においても、十分にプライバシーを配慮し、支援を行っている。	入居者は「さん」付けで呼び、会話のなかで不快な思いをさせないよう「気持ちのいい言葉」を使うよう心掛けている。朝の挨拶をする時から入居者の表情を見て状態や気持ちを推測して言葉かけを変えている。お願いする時には「してもらっていいですか」、動作に対しては「ありがとう、おかげさまで助かりました」と返している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話した言葉や行動の中で、やりたい事や希望を見極めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意志がはっきりしている人にはその人らしいペースで過ごしていただいているが、コミュニケーションが困難な人たちに関しては職員主体で動いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎朝前日とは違う洋服を着てもらっている。 ・洗髪や髭そりなど声かけをしている。 ・行事等は洋服もおしゃれ着風やお化粧をしたりして参加している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・片付けは利用者で可能な人にしてもらっている。 ・週1回朝食で、パンの日を設けている。 ・外食イベントが難しいため、定期的にテイクアウトしていつもとは違う雰囲気です食事を楽しむ。	入居者は調理で炒めたり、盛り付け、皿洗い、皿拭きを手伝っている。季節ごとに地域のお店でお弁当を購入している。おはぎを購入しておやつにしたり、家族からいただいたお菓子を楽しんだり、お節、スイカ割、クリスマスケーキのデコレーションなど季節を感じつつ食を楽しむ機会がある。旬のタケノコ、枝豆、トマト、キュウリ、イチゴを収穫して食べ、ゆずを煮てゆず茶を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分量を毎日全員チェックしている。 ・ミキサーや1口大等を利用者の嚥下状態やADLに合わせて提供している。 ・食事量や水分量が低下見られたときは、食べやすいように工夫したり、嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要な利用者には職員が介助し、口腔ケアを実施している。 ・訪問歯科による定期的なチェックも受けている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位が保てる方には、出来るだけトイレでの排泄を促している。立位が取れず、介助が難しい方はベッド上で対応している。利用者18名のうち17名がトイレで排泄している。	夜間おむつの方1名、短時間でも座位と立位がとれれば日中はトイレでの排泄を促している。パット使用の場合でも夜間と日中で使用のものを変更して対応している。布パンツ使用の方が約半数となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはオリゴ糖やヨーグルト、牛乳を提供し排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助は個々に合わせて行っているが、入浴時間については利用者全員の安全が確保出来る時間帯、人員配置の時に行っている。	お一人ずつ入浴毎にお湯を替えている。光明石を活用し温泉効果を満喫している。ユニット間で協力し、どの曜日が入りやすいか考慮して、入居者の希望の時間で入浴できるよう取り組んでいる。立位の不安定な方が入るさいには、手すりにクッション材をとりつけて対応している。石鹸類は個人持ち。ゆっくりと湯舟につかり、光明石温泉を楽しむ方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中でも体調等を見て居室にて休んでもらうこともある。 ・個々の状態により、夜間はパット交換の時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルや服薬管理ボードを用意し、必要に応じて確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合わせて、家事の役割が出来る方には手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が難しくなっているため、ガーデン散歩やテラスに野菜、花、植物等を植えて、外に出る機会を増やして。また、外食イベントもテイクアウトをし普段とは違った雰囲気を楽しむ頂いている。	敷地内に広いケアガーデンがあり、コロナ禍でも外部の方と触れ合うことなく気軽に散歩に行き季節を感じられる。毎日のように散歩に出かける方や週に一度外出する方、また、季節の花の栽培や木の実を取りに行く方もいる。テラスに野菜や花を植えて水やりなどの世話をするなど外に出る機会に恵まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を持参し、好きなものを購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話にて家族と会話が自由にできるように職員が支援をし、外部からの電話をとりつく事を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・壁画工作やガーデンやテラスに植物の採取ができるように入居者と一緒に定期的に行い、季節感を味わえるように努めている。 ・清潔感を大事にしています。	児童の帰り時間を案内板で確認して、学童に来る子にガラス越しに挨拶するのが日課となっている。食事中にはテレビを消してCDをかけ、介助が必要な席と自立している人のテーブルをわけている。天窓からの光が眩しすぎる時には席を移動して対応している。玄関に職員の顔写真と名前を貼りだしている。廊下にはイベントの写真や入居者の作品を掲示している。雛人形は入居者と一緒に飾った。台所は入居者が作業しやすいように余分な調理器具は片づけている。ウッドデッキでは入居者が花壇を作ったり、草取りを行っている。コロナ禍では、外で家族と面会する時期もあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファにて思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品をお持ち頂き、居心地よく過ごせるように工夫している。入所時だけでなく入所後も、ご本人が使い慣れた家具や小物を必要に応じて持ってきてもらえるように努める。	使い慣れた家具、ベッド、布団を持ち込み、遺影・誕生日祝いや行事の写真、塗り絵などの制作物を飾って一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫した居室となっている。職員は動線を考えた部屋の模様替えやできる入居者とは一緒に部屋の掃除したり、衣服の整理をして衣類交換を手伝うなど、清潔で安全に居心地よく過せる居室への配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレや居室の場所等の掲示により、わかりやすく工夫している。 ・できる事を大切にしながら支援していく。		

目標達成計画

作成日: 令和 4 年 3 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	運営理念をミーティングで読み合わせをすることで、意識はできてきているが、理解ができ実践できているかの振り返りができていない。	運営理念を理解し、実践に繋げる。	定期的な勉強会を行い、職員同士お互いに取り組むことができているか確認し合う。また、職員が共通理解し合うことで、職員同士が育つ取り組みを行っていきたい。	6ヶ月
2	48	役割、楽しみごとの支援が偏ってしまっている。	日々充実した生活が送れるように、その人が出来る事を維持することができる。	アセスメントシートを取り直しをし、ご利用者が役割や楽しみを継続できるように評価を行う。	6ヶ月
3	35	感染症に対する研修や訓練を行っているが、実際に起こった時の対応が適切に行えるか。	実践に役に立つ研修や訓練を行う。	研修や訓練後に、レポート提出や予告なく訓練を行う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。